

- 11月18日の第2回電力安全部会の議論で、下記のような指摘をいただいたところ。

①スマート保安技術導入に係るボトルネック・課題

- 定期事業者検査の検査時期は、個社の技術レベルに応じて合理化できるようにしてほしい。
- スマート保安が導入された際の主任技術者の配備や現場出向に係る目安を示すのが重要ではないか。
- 需要設備については、既設設備のスマート化も将来的な課題のひとつ。

②新技術の導入に当たって必要な取組

- スマート保安技術が確立されれば、点検時間・費用を縮小できるとともに、点検作業に伴う停電も不要となる。ぜひ支援してほしい。
- AI等が保安の現場を大きく変える。技術開発や人材育成が必要ではないか。
- サイバーセキュリティ人材を育成する場が必要ではないか。

③新技術の妥当性確認に係る論点

- 不確実性がある中でむやみに保守的にならず、前向きな評価をすることが大事。
- 第三者による技術の確認は、好事例の共有という意味で有意義。一方で、このプロセスのみに縛られて自主保安の余地が狭まることのないようにしてほしい。

ご議論いただきたいポイント

【今回新たに議論するポイント】

1. スマート保安のKPIの考え方について違和感はないか。（アクションプラン2-4）
 - スマート保安技術の導入に係るKPIについて、違和感はないか。
 - プロモーション委員会等を通じた、高度なスマート保安のモデルの創出の件数を増加させること
 - 高度なスマート保安のモデル創出に必要なデータや機器を整理した上で、新たなKPIを設定していくこと
 - スマート保安技術の導入の効果として、災害の発生状況等を踏まえながら、事故率の維持等のトレンドを確認していくことに違和感はないか。
2. 新技術の実用化・導入に必要な官・民の取り組みについて、前回御議論いただいたリストを元に具体化を図ったところ、違和感はないか（アクションプラン4-1～4-2）

【全体を通じてのポイント】

3. 以上及び前回までの議論を踏まえ、アクションプラン全体として違和感がないか
4. 本アクションプランを通じて官民で取組を進めるにあたり、定期的にフォローアップを実施するとの進め方でよろしいか（アクションプラン4-3）